

## 令和5年度卓越研究員決定者一覧

通番	氏名	審査分野	機関名	部署名	ポスト分野	卓越研究員としての研究テーマ
1	徐 建文	情報学	国立大学法人室蘭工業大学	しくみ解明系領域（システム情報学ユニット）	情報学	次世代耐災害高信頼マッシブIoTアーキテクチャの構築
2	田宮 寛之	生物系科学	学校法人関西医科大学	附属生命医学研究所テニユアトラック部門	医歯薬学	試験管内で脳を創り、体内時計創薬を目指す
3	佐々木 悠太	工学系科学	国立研究開発法人物質・材料研究機構	磁性・スピントロニクス材料研究センター	工学系科学	L10-FePtナノグラニューラメディアにおける全光学的磁気記録技術の確立
4	夏目 祥揮	数物系科学	学校法人東海大学	国際原子力研究所	数物系科学	核融合ダイバータプラズマのデータ駆動型光学的制御法の研究
5	浦島 周平	工学系科学	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	原子力科学研究所 原子力基礎工学研究センター 原子力化学研究グループ	化学	高レベル放射性廃棄物中の全元素分光分析法の開発
6	仲村 康秀	数物系科学	国立大学法人島根大学	エスチュアリー研究センター環境変動解析部門	農学・環境学	プランクトンに着目したDNAメタバーコーディングによる古環境・古生態系復元
7	廣島 渚	数物系科学	国立大学法人横浜国立大学	大学院工学研究院	数物系科学	宇宙観測と素粒子物理学の融合による暗黒物質の探究
8	松尾 宗征	化学	国立大学法人広島大学	大学院統合生命科学研究科	化学	超越分子システムが示すダイナミクス
9	西原 秀昭	医歯薬学	国立大学法人山口大学	大学院医学系研究科	医歯薬学	神経疾患での血液脳関門破綻機序解明
10	桃田 翔平	社会科学	国立大学法人広島大学	大学院人間社会科学研究科人文社会科学専攻経済学プログラム	社会科学	資源配分の歪み～女性の労働供給とマクロ経済～
11	Y A O Y A O	情報学	LocationMind株式会社	Research and Development Division	情報学	Location Intelligence and Geospatial Foundational Models（位置情報技術と地理空間基盤モデルの研究）
12	潘 振華	化学	兵庫県公立大学法人兵庫県立大学	工学研究科応用化学専攻	化学	光触媒反応による太陽光燃料の製造

※補助金の対象とならない卓越研究員を含む。

令和5年度卓越研究員事業における公開ポストを提示した研究機関

●国立大学（14機関）		募集人数
1	国立大学法人京都工芸繊維大学	3
2	国立大学法人東京大学	2
3	国立大学法人金沢大学	2
4	国立大学法人宮崎大学	1
5	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学	1
6	国立大学法人広島大学	3
7	国立大学法人 東京医科歯科大学	1
8	国立大学法人北海道国立大学機構 北見工業大学	2
9	国立大学法人島根大学	1
10	国立大学法人秋田大学	4
11	国立大学法人室蘭工業大学	2
12	国立大学法人長岡技術科学大学	1
13	国立大学法人横浜国立大学	1
14	国立大学法人山口大学	1
計		25

●公立大学（1機関）		募集人数
1	兵庫県公立大学法人兵庫県立大学	1
計		1

●私立大学（2機関）		募集人数
1	学校法人東海大学	1
2	学校法人関西医科大学	1
計		2

●大学共同利用機関法人（0機関）		募集人数
1		
計		0

●国立研究開発法人（3機関）		募集人数
1	国立研究開発法人物質・材料研究機構	1
2	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	1
3	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	6
計		8

●企業（2機関）		募集人数
1	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所	1
2	LocationMind株式会社	2
計		3

●社団・財団法人（0機関）		募集人数
1		
計		0

●全体（22機関）		募集人数
計		39



## 背景・課題

- 我が国の研究力強化の鍵は、競争力のある**若手研究者の活躍**であり、**若手研究者と産学官の研究機関とのマッチングを促進**し、科学技術イノベーションの推進と我が国の持続的発展につなげていくことが必要。
- 特に、**産学官の研究機関が優れた若手研究者に安定かつ自立した研究環境を提供**し、自主的・自立的な研究に専念できるようにしていくことが我が国の研究力の向上を図る上で極めて重要。

### 【統合イノベーション戦略2022（令和4年6月3日閣議決定） 抜粋】

- 組織全体で若手研究者のポストの確保と、若手の育成・活躍促進を後押し

## 事業概要

### 【事業の目的・目標】

- 優れた若手研究者が産学官の研究機関において安定かつ自立した研究環境を得て自主的・自立的な研究に専念できるよう、研究者及び研究機関に対する支援を行う。

### 【事業の概要】

- ① 卓越研究員の受入れを希望する大学，研究開発法人，企業等からポストを募集し，一覧化して公開
- ② 若手研究者に対して卓越研究員事業の公募を実施
- ③ その後，卓越した研究者とポストを提示した研究機関が交渉  
その際，**若手研究者と研究機関をつなぐブリッジプロモーターによりマッチングを促進**
- ④ 申請者及び候補者（マッチングが成立していない者を含む）に対して，厳正な審査を行い、文部科学省が若手の卓越した研究者を卓越研究員として決定
- ⑤ 卓越研究員を受け入れた研究機関に対し，一定の期間，研究費等を支援  
※ 海外からの帰国者や、民間企業等を志望する者の特別枠を設け支援。

### 【事業スキーム】

- ✓ 支援対象：国公立大学，国立研究開発法人，民間企業等
- ✓ 人数：130名程度（うち新規採用10名程度）
- ✓ 支援内容：【A】若手研究者の研究費 年間6百万円（上限）／人（2年間）<sup>1</sup>  
研究環境整備費 年間2～4百万円（上限）／人（5年間）

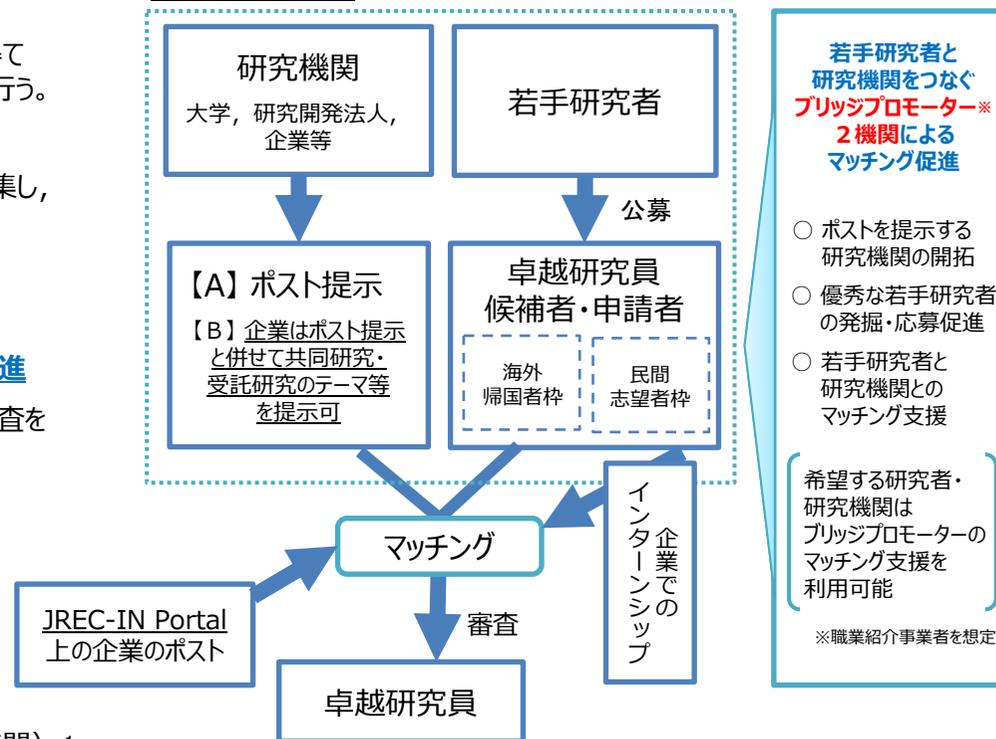
※ 1 人文・社会科学系は、400万円を上限

- 【B】産学連携活動費 年間最大10百万円（上限）／人（最長5年間）<sup>2</sup>

※ 2 クロスポイント制度や出向制度を活用した共同研究も想定。

補助率1/2とし、企業負担額を上限。共同研究等の開始が2年目の場合、1年目は研究環境整備費のみ措置。

### 【事業イメージ】



【A】従前と同様，若手研究者の研究費と研究環境整備費を支援

【B】企業が卓越研究員を共同研究又は受託研究に  
従事させる場合は産学連携活動費の1/2を支援

※ 企業は【A】又は【B】を選択。

## 1. 公募期間及び申請件数

令和5年度卓越研究員事業について、令和5年4月27日(木)からポスト公募を開始し、同年12月12日(火)までに、大学や公的研究機関、民間企業などから39件(22機関)の提示にご協力いただき、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会のウェブサイトを通じて公開しました。(別紙2参照)

申請者(若手研究者)については、令和4年度からの候補者資格継続者が45名でした。また、令和5年5月12日(金)より申請を受け付け、同年6月15日(木)までの間公募を行った結果、85件の申請がありました。

## 2. 選考方法及び決定件数

本事業に係る審査等業務を行う独立行政法人日本学術振興会において、有識者によって構成される卓越研究員選考委員会を設置し、本事業の審査要領に基づき審査を行い、同委員会の審査結果を踏まえ、令和5年10月26日(木)に文部科学省において、候補者資格継続者45名を含む81名の卓越研究員候補者を新たに決定しました。

同時に、新規申請者(研究者)とポストを提示した研究機関において当事者間交渉が行われ、令和5年8月31日(木)までに当事者間交渉を終えた卓越研究員候補者が補助金支援予定者数である10名に満たなかったため、9月以降に当事者間交渉が完了した卓越研究員候補者も加え、計10名を補助金による支援の対象となる卓越研究員として決定しました。その後、補助金による支援の対象とならない卓越研究員を追加で2名決定し、計12名を令和5年度卓越研究員として決定しました。